

# TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)  
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

4月特別上映会



## ペコロスの 母に会いに行く

2014 4/12 土

ベルブホール  
(多摩市立永山公民館)

(ベルブ永山 5F・京王永山駅・  
小田急永山駅下車徒歩約2分)

① 10:30 - 12:23

[ゲストトーク]

12:24 - 13:00

村岡克彦氏

(本作プロデューサー)

② 13:30 - 15:23

③ 16:00 - 17:53

④ 18:30 - 20:23

\*全席自由席・各回入替制です。  
\*開場は各回 15 分前です。  
\*スケジュールは変更になる  
場合があります。

©「ペコロスの母に会いに行く」制作委員会

チケット

前売 大人(13歳以上) 1,000円

当日 大人(13歳以上) 1,200円 子ども(4~12歳) 600円

※TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者と  
その付添者 1 名は当日 600 円です。

### ～ 企画者からのメッセージ ～

老いていく親を妻を夫を、あるいは他人を見守っていくことが本当にできるのだろうか。

古くて新しい問いかけに私達はどのように答えていくのだろうか。「老い」を描いた映画は過去に多く作られている。認知症をボケと表現していた頃、『恍惚の人』『花いちもんめ』。より古くは「楢山詣り」というハレの言葉に包み母を棄てざるをえない時代を描いた『楢山節考』。海外では、介護により壊れていく家族を描いた『別離』、そしてジャン・ルイ・トランティニアンが渾身の演技で悲しみの愛を表現する『愛・アムール』。いずれも答えは bitter なものになっている。

森崎東監督の『ペコロスの母に会いに行く』は核化した家族内で個人での介護がいかに限界にあるかを岩松了と赤木春恵の、時におかしく、時に切ない掛け合いで観る者に突きつける。介護保険制度が発足し、個人に押し付けていた介護を制度として地域が主体的に担う。そして老老介護や介護離婚等に進むリスクを少しでも減らす。・・・はずであった。しかし制度の改定に次ぐ改定を重ねても、事態は一向に進まず、特養の入居を待ちながら看取られる高齢者は後を絶たず、逆に閑古鳥の鳴く地方の特養施設。劣悪な環境のショートステイの増加。企業参入による収益優先の労働条件の悪化。どこでボタンを掛け間違えたのだろうか。

「俺には親を棄てることはできない」。主人公が気の置けない友人から投げられる言葉がある。言いたくない言葉で聞きたくない言葉。施設に入居させる時にほぼ間違いなく投げられる言葉だ。「誰が好き好んで親を施設に入れるかよ」(これは私が両親を特養に入れた時に言い返した言葉)。

家族の単位が核化している今、小規模多機能型介護施設の増加により再び地域介護体制の確立を凶ろうとしていることはある意味、正解かもしれない。願わくば担い手の環境整備も伴ってほしいが。そんな時代での『ペコロスの母に会いに行く』。状況は相変わらず個人に厳しいが、母の父の生きてきた個人の歴史に気づく時、個人にしか担えない関わりもあることに少しほっとする。長崎の風景に、ひっそりと溶け込む「みつえ」に、それぞれの母を想い、ランタンフェスティバルの奇跡に運命のやさしさを感じる。素晴らしい作品に出会えたことに感謝。

(竹内 昇)

特別上映会特設ページ: <http://www.tamaeiga.org/special/pecoross/>



©『ある精肉店のはなし』より

① 10:30 - 12:20 [12:35 まで感想の時間]

② 13:30 - 15:20 [15:35 まで感想の時間]

③ 16:00 - 17:50 [18:05 まで感想の時間]

④ 18:30 - 20:20 [作品鑑賞後に感想などを共有しませんか? 自由にご参加ください。]

\*全席自由席・各回入替制です。\*開場は各回 15 分前です。

\*スケジュールは変更になる場合があります。

前売 大人(13歳以上) 1,000円

当日 大人(13歳以上) 1,200円 子ども(4~12歳) 600円

※TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者 1 名は当日 600 円です。

〔著名人コメント〕 崔 洋一 (映画監督)

このお肉を食べたい。できれば、主人公一家の食卓にまぎれこみ、一緒に頬張りたい。

この映画は僕にあらためて、ひとがひととして生きていくための食することの幸福、そして、その喜びを与えてくれる厳しくも神々しい命のリレーの尊さを教えてくれた。

北出さん一家に寄り添うカメラの距離と存在が良い。

そして、なんの銜いもなく淡々と日々を重ねるこの家族こそが、わたしたちの原像たりえる、と確信した。

(『ある精肉店のはなし』公式ホームページより転載)

### ～ 企画者からのメッセージ ～

『ある精肉店のはなし』は大阪府貝塚市で7代にわたって牛と、そしていのちと向き合い続けた北出精肉店の姿を追った、『祝の島』につづく、瀬瀬あや監督 2 作目の長編ドキュメンタリー作品となります。牛を扱う北出さんたちの印象的な表情や手つきに加え、被差別部落問題や屠畜産業といった問題にも臆することなく寄り添うようにやさしく、やさしく捉えています。

飽食時代をむかえ、TPP、遺伝子組み換え食品など「食」をめぐるは様々な問題が待ち受けています。家族のあり方や人々のつながりもかなり変わってきたのではないのでしょうか。

また差別をめぐるはヘイトスピーチが社会問題化しつつあり、先日もサッカーJリーグでとあるチームの横断幕が問題になったばかりです。

そんな私たちにとっても身近な問題を含んだこの作品を観て、どう感じるか? どう考えるか? ということを探っていきたいと考え、今回初めての試みとして感想共有タイムを複数回の上映後に設けました。共有することで新しい見方や何かが生まれるかもしれません。ぜひお気軽にご参加くださいませ。

また、本作品プロデューサーの本橋成一氏の写真集『屠場 くとは』より作品を複数展示します。『屠場 くとは』は大阪府松原市でいわれなき差別を受けながらも、ひたむきに「いのち」と向き合う人々を追った写真集です。映画と併せて、より一層何かをみなさまの元に残せることを願っております。

(橋口聖)

本作プロデューサー 本橋成一氏の写真集

『屠場 くとは』より作品展示決定!! 会場にて併せてご覧頂けます。

〔作品データ〕『ある精肉店のはなし』(2013年/日本/1時間48分)

監督:瀬瀬あや プロデューサー:本橋成一 撮影:大久保千津奈 編集:鶴飼邦彦

製作:やしほ映画社、ポレポレタイムス社 特別上映会特設ページ: <http://www.tamaeiga.org/special/seinikuten/>  
釜山国際映画祭ワイドアングル部門正式出品作品 山形国際ドキュメンタリー映画祭日本プログラム部門正式出品作品  
2013年 第87回キネマ旬報文化映画ベスト・テン第2位

# negative: nothing ネガティブ：ナッシング

全てはその一歩から

① 11:00 - 12:18 ② 13:30 - 14:48  
③ 16:00 - 17:18 ④ 18:30 - 19:48

\*全席自由席・各回入替制です。  
\*開場は各回 15 分前です。  
\*スケジュールは変更になる場合があります。



## □□□□□□ 作品紹介 □□□□□□

あの日を境に全て変わってしまった。スイスの旅行会社で日本旅行手配を担当していたスイス人、トーマス・コーラは甚大な被害をもたらした東日本大震災と津波、そして福島原発の事故の影響により客足が途絶え、職を失う。

トーマスは今こそ大好きな日本に恩返しをしようと思いたち、2900 km、日本縦断徒歩の旅へ旅立つ。雨にも負けず風にも負けず、トーマスはひたすら歩き続ける。「日本は福島だけじゃない。ほかにも素敵な場所がある」との思いを込めて、自分の足で感じ、目で見た風景をブログに綴った。「ネガティブ：ナッシング」(嫌だったこと：なし)。気がついてみたら毎日ブログをそう締めくくっていた。

暗い雰囲気覆われていた日本で、トーマスのメッセージは多くの日本人の心を打った。

2014年、あれから3年、一途な活動を続けたトーマス・コーラは日本とスイスの国交樹立 150 周年のシンボリック的存在となっている。

トーマスの旅をスイス人のジャーナリストと映像作家、ヤン & ステファン・クヌーセル兄弟がドキュメンタリー映画に収めた。この映画は口コミで広がり、公開から一年たった現在も大きな反響を呼び、完全自主製作ながら、すでに 1 万人以上の観客を動員している。  
(遠藤弘樹)



東日本大震災後、  
日本を勇気づけたいと  
徒歩で日本を縦断した  
スイス人男性の記録映画

■ ゲストトーク(予定) 詳細はウェブサイト <http://www.tamaeiga.org/> でお知らせいたします。

前売チケットは5月6日(火・祝) 一般発売予定です。

前売 大人(13歳以上) 1,000円

当日 大人(13歳以上) 1,200円 子ども(4~12歳) 600円

※TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。

## 世界一美しい本を作る男

—シュタイデルとの旅—

(ゲレオン・ヴェツェル、ヨルグ・アドルフ監督)

### 特別上映会レポート



2月22日に行われた特別上映会『世界一美しい本を作る男～シュタイデルとの旅～』はTAMA映画フォーラムの今年最初の上映で、2月から実行委員会に参加した私には最初の上映会となりました。ドイツの小さな出版社で本づくりに情熱を燃やす男性シュタイデルが、世界中を飛び回りストイックに本を制作する様子が描かれたこの映画は、書籍の電子化が進む今、本のデザインや紙の手触り、さらには紙のにおいという本の新たな楽しみ方を教えてくれる作品でした。

当日は4回の上映でたくさんの方が来場し、パンフレットも完売と大盛況だったのですが、遠方から来てくださった方がいたり、アンケートに書かれたたくさんの熱い感想には上映している側の私の方が胸を打たれました。

上映会後の打ち上げでは、私と同じ年の娘を持つ方と普段親子では話さないような話をしたり、映画の話で盛り上がりすぎたのですが、こうして様々な年代の人と交流できることが、実行委員会のおもしろいところですね。TAMA映画フォーラムでは年齢・性別を問わず様々な職業の実行委員が参加していますので、少しでも興味を持っていただけた方は、ぜひ新人募集説明会に参加してみてください。(尾川佳奈)

## 第14回 TAMA NEW WAVE コンペティション結果

受賞された皆さん  
おめでとうございます!

第14回 TAMA NEW WAVE コンペティション (2013年11月30日(土) ヴィータホール) の結果は以下のようにになりました。

受賞者の皆さんの今後のご活躍を期待すると共に、TAMA CiNEMA FORUM としても応援していきたいと思っております。第15回 TAMA NEW WAVE コンペティションもご期待ください。

グランプリ作品『Dressing UP』(安川有果監督)

特別賞『家族の風景』(佐近圭太郎監督)

ベスト男優賞 池松壮亮氏 (『家族の風景』)

ベスト女優賞 袴キララ氏 (『Dressing UP』)



グランプリ受賞の安川有果監督



# 実行委員のおススメ映画コーナー

ここでは実行委員のおススメ映画を紹介いたします。

## 『小さいうち』(山田洋次監督 / 2014年)

## 小さいうち

赤い三角屋根が印象的な「小さいうち」を舞台に、戦前から戦時中にかけてこの家に住み込みで働く女中さん(黒木華)と、奥様(松たか子)を中心に描かれるラブストーリー。物語は老婆となった主人公(倍賞千恵子)が過去を思い出して自叙伝を書き綴るのにあわせて進行する。昭和モダンの明るく平和な雰囲気やセットや衣装が、戦況の悪化と恋の行方とが呼応するように、次第に寂しく貧しく変わっていくところも見所。

田舎から上京し女中として働き始めたタキは、美しく上品な奥様の時子に憧れながら東京での生活を身につける。素朴で従順なタキは、個性的な周囲の人間をうまくつなぎ合わせていた。特に奥様が主人の会社の部下に惹かれていくのに奔走したりと。タキは、戦時中に抱えてしまった奥様の大事な秘密を生涯忘れる事ができず、年老いてから少しずつ文章で吐き出して行く。これが何故か妙にリアルに感じてしまうのも、名優倍賞千恵子が語るからなのかもしれない。私は、自分が大好きだったお婆ちゃんの昔話を思い出して、物語の大事な場面では一気に感情移入(つまり号泣)してしまった。

華やかで凛とした松たか子も良かったが、対照的に家庭的で包み込むような黒木華の演技も良かった(この映画で第64回ベルリン国際映画祭最優秀女優賞を受賞)。人間ドラマの描写はさすが山田洋次監督。個性的な多くの登場人物をうまく一つの物語にまとめている。年配の方だけでなく昭和レトロに興味がある若い人にもお勧めの映画。(深谷玄人)

## 『2001年宇宙の旅』(スタンリー・キューブリック監督 / 1968年)



何を今さら… 雑誌「ぴあ」の名物企画「もあ10」をご存じの世代はこう呟いていることと思います。でも、今年還暦の映画好きおっさんは、「2014年のおススメ映画」として、これを書かずにはいられないのであります。

『ゼロ・グラビティ』を観て、無重力/無酸素の世界を体感し、宇宙なんてゼツタイ行きたくない!と思っちゃった人にも、困難を乗り越え、新しい自分に生まれ変わることの素晴らしさに感動しちゃった人にも、人類が地球の外に出たばかりの頃に作られたこの映画を強くお勧めします。

SF映画の名作、宇宙映画の最高傑作としても有名な作品ですので あちこちで語られ、解説され、分析されています。これからご覧になる方は、是非、以下に従ってご鑑賞ください。

- ・映画館で観る。(最近増えてきた名作選上映会などをねらってください)
- ・やむを得ず他メディアで観るなら、ぜひブルーレイで。(DVDでは映像表現力が不足)
- ・観る前に、この映画に関するあらゆる情報を遮断する。
- ・鑑賞中はツッコミやおしゃべりなどしない。どんなに退屈でも、早送りしたり寝たりしないで最後まで頑張る。
- ・観終わったら、考える。悩む。話す。聞く。情報遮断を解除する。そして、その気になったら再度挑戦する…。

一見新機軸のようだが、実は不必要にややこしくしただけの筋書の映画が多い昨今。そのせいで、「ご親切な」説明や辻褃合わせの場面が増えているように思えてなりません。そんな流れの中であって、この映画の「不親切さ」に新鮮味を感じ、その裏にある作り手の「魂胆」に興味を抱いた方、また、その「映像の圧倒的な説得力」に驚嘆した方たちとお話ができる日が来ることを期待しているおっさんであります。(烏居俊平太)

『セデック・バレ』（第一部：太陽旗 / 第二部：虹の橋）  
（ウェイ・ダーション監督 / 2011年）



ウェイ・ダーション監督、2011年の台湾映画。第48回台湾金馬奨グランプリ。構想から10年以上かかったという。「セデック・バレ」とは、“真の人”を意味するセデック語である。台湾の日本統治時代、台湾原住民による武装蜂起を発端とした抗日暴動「霧社（むしゃ）事件」（1930年）をモチーフにした作品。高校の歴史の授業で習ったかどうか、残念ながら記憶にはない。

さて、この映画、台湾原住民がキャストとして多く起用されているのも特徴。とにかく動きが半端ではない。密林を全速力で駆け巡り、岩壁をよじ登っては滑り降り、機敏に木々の間を跳び移り、川を渡る、・・・こちら側（私）も一緒に走るが追いつけない、ようやく岩壁をよじ登ったと思ったら転げ落ち、腰を痛め、そしてもう跳ぶことすらできない！、ぐったりする程の疲労感、臨場感を味わった。大地に仰向けで寝ているシーンでは、大地の温かさと土の匂い、地を這う虫のささやき、鳥の声、風の音、そして天空の広さを一緒に感じた。奥へ奥へと深い森へ入るのは文明に対する逃げなのか、勝つための戦略なのか、それとも「神」に近づくためなのか、興味はつきない。歴史、民族、正義、情愛、誇り、苦悩、葛藤、怒り、・・・さまざまな要素が散りばめられたエンターテインメントです。

セデック族の頭目（とうもく）、モーナ・ルダオ役のリン・チンタイが遠くを見る目、行く末を知っているような目が印象的（リン・チンタイは牧師で映画初出演！）。運命に寄り添う、マホン・モーナ役のランディ・ウエンの澄んだ目も印象的（ランディ・ウエンも映画初出演！）。安藤政信、木村祐一、そして懐かしい！ピピアン・スー（「ブラックビスケット」として『タイミング』を唄ってましたね♪）も出演。最近少なくなった、“観てから「しっかり勉強」する映画”でした。お尻が痛いことも忘れた、堂々の4時間半。（飛鳥勝幸）

『あなたを抱きしめる日まで』

（スティーヴン・フリアーズ監督 / 2013年）



アイルランドの保守的な社会の中、未婚のまま10代で妊娠したフィロメナは家族から強制的に修道院へ送られ、同じ未婚の母たちと一緒に重労働を科せられる。そこで生んだ息子と1日に1時間しか会えない中で愛情を注ぐが、突然、息子を養子に出され、探すことも話すことも禁じた誓約書にサインさせられてしまう。その後、50年間隠し続けながらも生き別れた息子をずっと思い続けていたフィロメナは、ある日、父親違いの息子がいることを娘に告白し、娘の知り合いの元エリート・ジャーナリストと息子を探しに米国まで行く。

フィロメナを演じるジュディ・デンチの演技が素晴らしく、実話をベースとした悲劇的な話を、明るくユーモアを交えながら進んでいくため、観る人に過度な感傷を強いることはせず、最後の予想しなかった展開により観客の心に残る映画となっています。息子は母と故郷のアイルランドをずっと想っていることをあるメッセージで伝えます。一方で同じ養父母に育てられた女性は、実母のことを想ってはいません。

神に仕える修道女が人身売買を行い、嘘をつき、そのことに謝罪もありませんが、フィロメナは神の名のもとに赦します。一緒に息子を探す元ジャーナリストはもともとカソリックに対して疑いを感じていたこともあり、修道女を赦すことができません。修道院は未婚の母を罪深きものとする一方、フィロメナは息子がいる種のマイノリティであることを淡々と受け止め、あるがままを受け入れます。

映画は様々な対比を提示し、観客に自分がどちら側であるのか問い、考えさせます。また、映画に出てくる様々なアイコンにはそれぞれ意味があり、監督が伝えたいことを代弁しています。

物語はサスペンス、コメディ、探偵もの、宗教告発、社会派と展開していくため、98分の上映時間が非常に短く感じます。老若男女問わず、全員に観てほしい作品です。（石井秀明）



## 『わたしはロランス』（グザヴィエ・ドラン監督 / 2012年）

この映画は主人公の男性ロランスが「僕は女になりたい」と恋人のフレッドに打ち明けるところから始まる。フレッドは恋人の告白に動揺し、彼を激しく非難するが、ロランスの理解者であろうと決意する。しかし、女性の格好をするようになったロランスは好奇の目にさらされ、職も失うこととなり、フレッドはうつ状態に陥ってしまう。二人は別々に生きることを決意するが、長い時間が経っても相手を思い続けることとなる。

人が誰かを愛する時に「ありのままのその人を愛したい」と願うことはよくあることだと思う。しかし実際は、無意識のうちに相手に何かを期待しているし、それと同時に「相手の期待に応えたい」と思うこともあるだろう。フレッドはありのままの彼を愛そうとするが、自分が彼に男性という性を求めている事実により傷つき、同時にロランスも、それを与えられないことに傷つく。ただ「ありのままの相手を愛そう」とすること、「相手が期待する自分であろう」とすることが、この二人にとっては絶対的に困難なことなのだ。

この映画に興味を持ったのは、トランスジェンダーの恋をテーマにしていることからだったが、それ以上に心に残ったのは、お互いの差異を受け入れるという絶対的な困難に立ち向かう二人の姿だった。傷つきながらお互いを愛する二人は、映画の中で強く、美しく映り、私はその姿に勇気づけられると共に、どうしようもなく救われたような気持ちになった。

監督のグザヴィエ・ドランは、24歳でありながら過去3作品全てがカンヌ国際映画祭に出品され、全米初公開となった本作では彼の才能に注目したガス・ヴァン・サントがプロデューサーを務めている。この華々しい経歴から期待される通り、ストーリーやテーマだけでなく映像、音楽などあらゆる場面において彼の圧倒的な才能が感じられるが、先日ドランは現在製作中の『Mommy』を最後に製作活動の休止を宣言している。今後の創作活動に向けてとのことだそうだが、この突然の活動休止を含め、彼は今後を期待せずにはいられない、今最も気になる存在である。（尾川佳奈）

## 『地球防衛未亡人』（河崎実監督 / 2014年）

## 地球防衛未亡人

TAMA CINEMA FORUMへも2回ゲストとして来場している社会派(!?)の河崎実監督最新作。

『地球防衛少女イコちゃん』（1987年）、『地球防衛ガールズ P9』（2011年）に続いて、地球防衛隊員はついに未亡人になってしまった。

壇蜜が地球防衛軍のエースパイロットという設定で、ウルトラセブンのモロボシダンを演じた森次晃嗣氏がダン隊員（壇蜜）に向かって「ダン隊員！」と言いたいがためだけの映画かと思っただら、もともとは使用済み核燃料を食べる怪獣という設定が先にあったそうである。

宇宙怪獣ベムラスに入籍したばかりの夫を殺害されてしまった芸者のダンが、地球防衛軍 JAP の隊員として復讐を果たそうとするが、ベムラスに攻撃を加えるたびに何故か快楽が生じるようになってしまう。そして、一方、ベムラスは原子力発電所で使用済み核燃料を食べ始める。そのため、ベムラスをめぐる日米中間にさまざまな思惑が生じる・・・というポリティカル(?)なストーリーだ。

某総理や某元都知事や某大統領のそっくりさんも出演して、社会問題を揶揄する危険なネタがたくさん盛り込まれている。

また、河崎監督のライフワークとも言える電エースも登場するというサービスぶりである。

河崎監督には今後も色々な意味で突き抜けた作品を作り続けて欲しい。

（吉野 治）

## 第24回映画祭 TAMA CINEMA FORUM

今年の映画祭は11月22日(土)から11月30(日)までの開催予定です。

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第6回目を迎える日本で一番早い(!?)TAMA映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。

皆さん、どうぞお楽しみに!

### 第5回TAMA映画賞受賞作品・受賞者

最優秀作品賞 『さよなら溪谷』『横道世之介』

最優秀男優賞 松田龍平氏

最優秀女優賞 真木よう子氏、吉高由里子氏

最優秀新進男優賞 星野源氏、池松壮亮氏

最優秀新進女優賞 黒木華氏、刈谷友衣子氏

最優秀新進監督賞 中野量太氏、白石和彌氏

特別賞 原恵一監督、及び『はじまりのみち』スタッフ・キャスト一同

特別賞 大根仁監督、及び『恋の渦』スタッフ・キャスト一同



第5回TAMA映画賞受賞者の皆さん

©TCF

第23回映画祭に  
たくさんのご来場  
ありがとうございました!  
今年もご期待ください。

### 映画祭新実行委員を募集します

第24回映画祭TAMA CINEMA FORUMを一緒に作りませんか?

映画祭の企画・運営に関わってみたい方やまちづくりイベントに興味のある方は、ぜひ実行委員として活動してみませんか。

▼説明会日時：5/11(日)

14時～15時半(13時半より受付)

▼場所：消費生活センター講座室(ペルプ永山3階)

▼内容：

- ① 映画祭が開催されるまで ② 映画の選定方法は?
- ③ 実行委員は何をするの? ④ どんな人が実行委員なの? 等

▼対象：映画祭運営に興味ある方どなたでも

▼申込方法：

電話またはファクシミリで、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を永山公民館内 TAMA 映画フォーラム実行委員会 ☎080(5450)7204(直通)、Fax(337)6003へ  
映画フォーラム実行委員会ホームページ  
<http://www.tamaeiga.org/> から申込可能です。

### 支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引(当日料金が半額! 2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

シベリア超特急  
シベ超ニュース

みんな大好き!? 『シベリア超特急』。

今年公開予定(?)の新作が楽しみです。

『シベ超』の最新情報は <http://www.sibecho.com/> で。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ [www.tamaeiga.org/](http://www.tamaeiga.org/)

@tamaeiga (最新情報をフォロー) [www.facebook.com/tamaeiga](http://www.facebook.com/tamaeiga) (facebookページに「いいね!」で参加)